

ステップ1 私たちの地域福祉（計画） こんなだったらいいな！

～みんなの言葉や思いをつなぎ合わせました～

「福祉」って？

支えあうこと、助け合うこと

思いやり
相手のことを想う
その人らしく生きるためのお手伝い
気にかけてあうこと
つらさの共有
調和

幸せ

ふつうにくらせるしあわせ
お互いの（みんなの）幸せ
自分にとっての幸せ・地域にとっての幸せ
あたたかさ、穏やかさ
幸福追求

生活、暮らし

自分らしく、その人らしく暮らす
社会生活を快適に過ごす
ありのままの姿で暮らせる

安心安全

生きる

生存権の保障
生きててよかったこのまちで
生きがいがある

第2期計画で大切にしたいこと

地域での役割づくり

人は一人では生きていくことはできません。必ず誰かに頼って生きています。

頼る相手がいること、また頼られる誰かがいることで、社会や地域における自分の存在が確認できます。つまり、だれもがだれかのために生きています。

だから、ひとりひとりに「役割」を担う機会があることが大切です。それぞれが違った個性や能力を生かし、役割を持つことで、それが「生きがい」のひとつとなり、自分自身の健康にもつながり、地域で住み続けることができます。さらに役割があることで、自分もその地域の「関係者」であることを認識し、地域社会とつながります。少しでも多くの人が社会に参加し、それぞれの役割が発揮できることにより、人は変わることができ、地域力を高めることができます。

つながり

行政や民間によって施される専門的な支援は一過性に過ぎません。そのため、私たちの暮らしには普段のつながりや、お互いが気かけあうことがとても大切です。

日常的なつながりがなくては、お互いの変化に気がつくことができません。

人と人、人と地域、行政と地域、制度・サービスのつながり、多様な主体の横のつながり、世代同士（ヨコ）のつながり、世代間（タテ）のつながり、そしてこれまでにない新しいつながりなど、さまざまなシチュエーションでつながり、それを「見えるつながり」、「実感できるつながり」、「楽しいつながり」にしていくことで、それぞれが持つ知識や経験が共有され、新しいものが創造される可能性があります。

そして、このつながりを近い将来だけではなく、次代へ引き継いでいくことが大切です。

参加

まちを作っていくのは、住民です。住民が主体にならないとその活動は続きません。だから、まずは、できることから少しずつ、そして気軽に参加する（できる）こと。このためには、参加できる機会を増やしたり、周りの人の意識を高めていくなど、参加しやすくなるようハードルを低くすることが大切です。

できるだけ多くの人に参加して、それぞれができることをしていけば、人がつながり、これまでに活動を続けてきた人たちの負担も減るかもしれません。

地域性への愛着

（廿日市市は）それぞれの地域※によって（歴史や文化、まちづくりの営みが）異なっています。（暮らしている地域の）「ひと」や「まち」が好きだから知る（知りたいと思う）、知るから助け合う、こうして自分の居場所ができていき、その地域に「いつまでも居たい」と思う。こうして、身近な「ひと」と「まち」への愛着がわくことにより、お互いの支え合い（共助）につながります。

この地域への愛着をエネルギーにしなから、特性を生かすことで、地域でやったほうがよいことは地域で取り組んでいくこともできそうです。

地域に目を向け、小さな地域も大切にすることで、自分たちの地域を誇れる地域住民になっていきます。 ※「地域」言葉の整理

人づくり

住民が主体となるまちづくりにおいて、人づくりはとても大切なことです。

相手を思いやる気持ち、優しい気持ちは、困っている人のお手伝いをするためには欠かせません。さらに、こうした意識を持つ人づくりを地域の中で広めていくことが必要です。

また、課題を解決していくために「つなぐ」のは、あたりまえのこと。つなぎ役である「コーディネーター」から、発見した課題を解決に向けて「カタチ」にしていくことができる存在、これからはまちづくりの「プロデューサー」としての人材が求められています。

仕組み（づくり）

活動の支援や情報の共有など、地域（福祉）活動を実践していくためには、それを進めていくための仕組みや組織の力が必要です。